
天弓 TENKYU

龍貴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天弓 TENKYOU

【Zコード】

Z8882S

【作者名】

龍貴

【あらすじ】

明生大学附属中学・高等学校には中学では珍しい弓道部がある。この弓道部では中学でも全国を目指す。しかしながら結果の残せないこの部に、天才と呼べる男子が入り、全国優勝を目指す。そして、ラブコメも。

第一射 甘い

バンッ！

的を矢が突きぬく快音が、道場に響く。的には3本の矢が刺さっている。あと一本で皆中（かいちゅう）だ。的前（まとまえ）に立つてるのは、中学2年生で、弓道歴は1年にも満たない。

周囲には高校生がいる。この学校は中高一貫のそれなりの進学校だ。中学の部活ではそんなに大会だのいろいろないが、弓道部は違ひ、中学でも全国を狙う。

これは、そんな「道部の全国優勝を目指す中学生たちの物語である。

弓道部員中高合わせて約60人が、天河帝（あまかわとおる）を見ている。キキキキ・・・とこう弓と手がされる音が、道場に響く。部員は息をのむ。

パンと弦音（つるね）がなる。矢は的のわずか左にそれる。「あ・・・」と周囲にいた部員が声を漏らす。帝は表情を何一つ変えず、

「フウ」

と一息ついた後、射場（しゃじょう）を出でいった。

まじかよ・・・・

3本目、それまで良かつた。しかし、甘かつたのだ。中学史上最年少での箇中は、少し手が届かなかつた。

帝は帰り道、自転車を押しながらそんなことを考えていた。

「元気出そよ

やう切り出したのは帝の隣にいる赤田茜せきたあかねだ。身長一四八センチ。身長と同じくらいではないかといつくりこの長いストレートの黒髪が風でなびく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8882s/>

天弓 TENKYU

2011年10月9日01時42分発行